

世界連邦宣言

いまひとつの世界を

自治体協新聞

発行 自治体協
世界連邦宣言
全国協議会
(事務局=綾部市)
〒623-8501綾部市若竹町8-1
TEL (0773) 42-3280
FAX (0773) 42-4406

地道な活動の継続を

アンケート結果まとめまる

本会では昨年10月から11月にかけて、加盟自治体に対し、本会の活動に関するアンケートを実施しました。財政難や業務量の増大により、積極的にかわかることが困難になっている反面、趣旨を全国に広げるため、地道な活動の継続が必要と考える自治体が多いことが分かりました。

活動PRで知名度向上を

アンケートは、加盟自治体が少ない中で、今後の運営の在り方や、本会が推進する中東和平プロジェクトへの意見などを聴く内容。事務局市を除く加盟73自治体中、27自治体から回答が寄せられ、回答率は37%でした。

問1「本会の活動の維持・活性化のための対策や事業」

については▽都道府県レベルでの加盟促進▽自治体職員1人100円募金は無理なくで

助け合う仕組み必要

問2「中東和平プロジェクトを推進するための施策と在り方」

については▽プロジェクトの資料や写真パネルを借り、展示する▽負担が伴うため加盟自治体間で助け合える仕組みが必要▽国際交流団体に委託するなどして自治体の負担を軽減する▽中東との連絡調整をサポートする体制があれば実施可能▽中東問題に限定せず、平和を考える機会を広く提供する▽趣旨のアピールを1歩進めて国に政策提言を行う▽補助対象を民間非営利団体にも広げ、公募する▽来日した子どもたちが各自自治体を訪問し、事業を全国にPRする一などの案が示されました。

問3「中東和平プロジェクトの実施意向」

は、いずれもありませんでした。

負担金の在り方検討も

問4「総会の開催場所、時期、旅費等」

については、財政難により出席困難とする自治体が7自治体。可能な限り出席する・近隣であれば出席

可能などとする自治体が14自治体でした。また、どこで開催しても多数の出席は困難であり、全国都市問題会議や全国市長会総会に合わせて開催してはどうか、との意見もありました。

問5「自治体協の負担金に

対する負担感」については、妥当であるとする自治体が10自治体。一方で▽負担が大きい▽負担金の支出、継続加盟とともに困難▽負担金の増額には対応できない・現状維持を▽負担金をなくしてほしい▽人口規模に応じた金額設定では、予算が削減されると即脱会につながる可能性がある▽加盟自治体が減少しないよう減額を検討すべき一などの意見もありました。

全国の自治体に啓発を

問6「自治体協の運営など

に関する意見」では▽市議会から自治体協活動の費用対効果を求められる。市民には身近でなく分かりにくい活動であるため理解を得ることが困難▽財政難や業務量の増加により活動への対応が困難。認識も薄れている一などと厳し

い現状を訴える自治体がありました。

また▽地域支部などの活動を把握し参加を促す▽加盟自治体、未加盟自治体ともに世界平和に対する考え方の差が大きい。全国の自治体に対して気長な啓発が必要一などの提案がありました。

定期総会で方針提案へ

今回のアンケートでは、各自治体の厳しい財政状況と事務量の増加、人員削減などにより、負担金の支出や積極的な活動が困難になっていることが明らかになりました。また一方で、本会の活動の趣旨普及に努めていくことや、工夫を凝らしながら地道な啓発活動を継続する必要性も指摘されました。

これらの意見を今後の運営に生かしていくため、事務局では、負担金や運営の在り方について検討。23年度の定期総会で一定の改善策を提案する方針です。また、次年度以降も持続可能な運営の在り方を探るため、加盟自治体の意見を聴くなどして柔軟に対応していきます。

加盟自治体の活動⑧ 宇治市

宇治市では、市を含む16団体で構成される『宇治市平和都市推進協議会』を母体とし、毎年さまざまな平和啓発活動を実施しています。

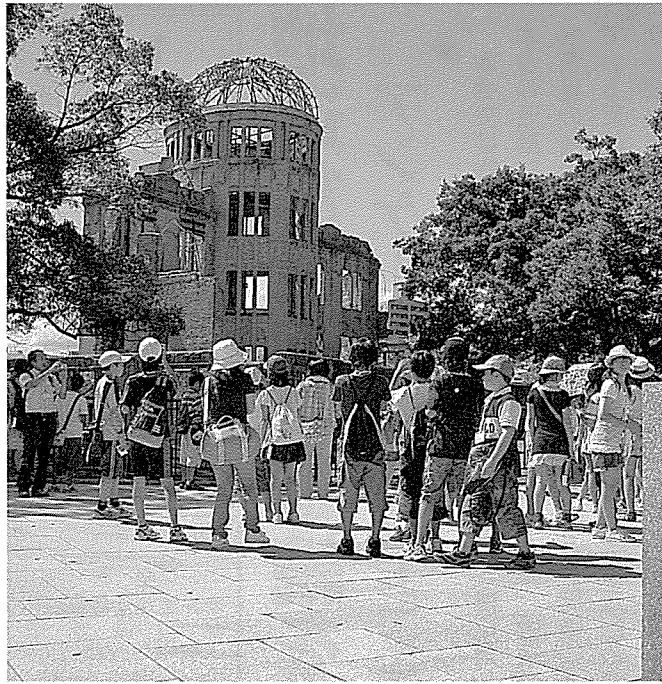
8月6日の平和記念式典に参加したほか、被爆体験講話の聴講や平和記念資料館の見学をしました。

その1つに『小・中学生平和訪問団派遣事業』がありま

す。この事業は、平成2年から実施。市内在住の小学6年生と中学1、2年生を広島、長崎、沖縄に派遣し、現地で平和学習をしています。

今年度は広島を訪問。初め

て8月6日の平和記念式典に宛先不明での郵便戻りも多くありましたが、200通を超える回答が寄せられました。回答の中には「成人し、子



小・中学生平和訪問団派遣事業で、広島
の原爆ドームを見学する子どもたち

を持つ今だからこそ、参加当
時を思い返すことがある」と
いった意見や「訪問から10年
以上経つ現在も、衝撃を受け
た戦争体験講話の内容や、資
料館で見た写真を鮮明に覚え
ている」といった貴重な意見
や現在の心境が、多数寄せら
れました。

また、アンケートの実施と
併せて記念行事も開催。今回
の訪問団員が現地で学び、戦



市民平和の集い「被爆ピアノコン
サート」で、平和への願いを発信



平和写真展では、広島を訪れた子ども
が作成した「広島訪問新聞」も展示

争体験者から受け継いだこと
を、市民の皆さんに伝える場
を設けました。

このアンケートと記念行事
の実施によって、20年間の積
み重ねが、確実に実を結んで
いることを感じると共に、戦
争の悲惨さを1人ひとりが知
ることの重要性を再認識しま
した。

平和訪問団派遣事業以外に

も、毎年8月には、戦争や平
和に関連する映画の上映や演
奏会などを実施しており、終
戦記念日には、庁舎前の平和
エリアで、祈念集会を開催し
ています。
今後、私たち大人をはじめ
め、次代を担う子どもたちが
平和の大切さを知り、伝えて
いける取り組みを実施してい
きたいと考えています。

本会活動を広報紙に

世界連邦運動は、住民の理
解を得て、自治体全体で盛り
上げていくのが基本。運動の
各自治体の世界連邦都市宣
言記念日などの機会をとらえ、歴史的背景や本会の活動など
運動の趣旨をぜひ広報紙など
で紹介してください。

100円募金にご協力を

平プロジェクトを実施した実
行委員会へ補助。また、日本
ユニセフ協会と日本UNHC
平和と難民救済のための自治
体職員1人100円募金」を
寄託しました。
募金は今後も、本会が「草
根の市民外交」として推進
を行います。職員の皆さんの温
かい善意をお寄せください。
平成21年度は、110自治
体から総額649万1600
円の浄財が集まりました。そ
の国の保健衛生、教育振興など
のうち500万円は、中東和
に役立てます。